

2 0 2 4 年 度

事 業 報 告 書

学 校 法 人 洗 足 学 園

～ 目 次 ～

法人の概要

1. はじめに	1
2. 基本情報	1
(1) 名 称	1
(2) 住所等	1
3. 建学の精神	2
4. 学校法人の沿革	2
5. 設置する学校・学部・学科等	3
6. 学校・学部・学科等の学生数の状況	3
7. 収容定員充足率	4
8. 役員の概要	4
9. 評議員の概要	5
10. 教職員の概要	5
11. その他	6
(1) 系列校の状況	6

事業の概要

1. 主な教育・研究の概要	7
(1) 卒業の認定に関する方針	7
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針	8
(3) 入学者の受入れに関する方針	9
2. 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	11
(1) 2020年度－2024年度中期計画の進捗・ 達成状況について	11
(2) 2024年度事業計画の達成状況について	12

財務の概要

1. 決算の概要	21
(1) 貸借対照表関係	21
(2) 資金収支計算書関係	22
(3) 事業活動収支計算書関係	23

2. その他	24
（1）有価証券の状況	24
（2）借入金の状況	25
（3）学校債の状況	25
（4）寄付金の状況	25
（5）補助金の状況	25
（6）収益事業の状況	25
（7）関連当事者等との取引の状況	25
（8）学校法人間財務取引	25
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、 今後の方針・対応方策	25

法人の概要

1. はじめに

1923年、関東大震災のわずか2ヶ月後、洗足学園は、女性の「自立」を支える教育の必要性を感じた前田若尾が、自宅の2階8帖二間を教室に開放した私塾として産声をあげました。大正デモクラシーによって女性の社会進出が広がる中で、多くの賛同者の力添えを得た前田若尾は、翌1924年に自宅の敷地内に新たに校舎を建て、当時女性が天職を得るために最も近道であった、裁縫を学ぶための女学校を設立したのです。

前田若尾が掲げた「理想高遠、実行卑近」の言葉通りにその遺志を継いだ前田豊子は、若尾の死の翌年、1948年に空襲によって焼け野原となった川崎市の校地に高等学校と幼稚園を、さらに1949年には小学校を開校するなど、洗足学園の歴史はまさに「挑戦」の連続でした。その「挑戦」があったからこそ、1924年の創立当初はわずか6名の生徒だった女学校が、現在では幼稚園から大学院までを擁する総合学園として園児、児童、生徒、学生総数5,160名を数えるまでに発展することができたのです。

洗足学園の建学の精神のもう一つの柱は「奉仕」です。十字架につけられる前夜、最後の晩餐の席を前にして、キリストは十二人の使徒たちの足をひとりひとり洗い、こう命じました。「主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた互いに足を洗わなければならない」（新約聖書ヨハネによる福音書第十三章）。敬虔なクリスチャンだった前田若尾は、校名を「洗足」と定め、この教えにこめられた「奉仕」の精神を養い、社会貢献に取り組むことを洗足学園の理想としたのです。

洗足学園はこの「自立」「挑戦」「奉仕」の精神の下、絶えず変化する社会の要請に応えるべく学校教育に邁進しております。

2. 基本情報

(1) 名称

学校法人洗足学園（1951年3月9日認可）

(2) 住所等

神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先：soumu@senzoku.ac.jp

HPアドレス <https://www.senzoku.jp/new/index.html>

3. 建学の精神

若き学徒をして、
 真の人生の目的に目覚めさせ、
 さらに人間の天職を悟らせ、
 謙虚にして
 慈愛に充ちた心情（謙愛の徳）を養い、
 気品高く、かつ実行力に
 富む有為な人物を育成する。

また、実践標語として「理想高遠 実行卑近」を掲げている。

4. 学校法人の沿革

1923 年（大正 12 年）	11 月	創立者前田若尾の自宅 2 階に私塾を開設
1924 年（大正 13 年）	1 月	自宅敷地内に校舎を建築し、洗足学園を創立
1926 年（大正 15 年）	5 月	洗足高等女学校設立認可 同日開校
1930 年（昭和 5 年）	10 月	財団法人洗足高等女学校 設立認可 以降設置者となる
1946 年（昭和 21 年）	6 月	川崎市久本に移転
1947 年（昭和 22 年）	4 月	学制改革により洗足学園女子中学校 設置認可 同日開校
1948 年（昭和 23 年）	3 月	洗足学園女子高等学校 設置認可
		洗足学園幼稚園 設置認可
	4 月	洗足学園女子高等学校 開校、洗足学園幼稚園 開園
	12 月	洗足学園小学校 設置認可
1949 年（昭和 24 年）	1 月	財団法人洗足高等女学校が財団法人洗足学園と改称
	4 月	洗足学園小学校 開校
1951 年（昭和 26 年）	3 月	財団法人洗足学園が学校法人洗足学園と改称
1953 年（昭和 28 年）	3 月	洗足学園第一高等学校（～2008 年 3 月）、洗足学園第二中学校 設置認可
	4 月	洗足学園第一高等学校、洗足学園第二中学校 開校
		洗足学園女子高等学校を洗足学園第二高等学校、洗足学園女子中学校を洗足学園第一中学校と改称
1962 年（昭和 37 年）	1 月	洗足学園短期大学 設置認可
	4 月	洗足学園短期大学 開学
1965 年（昭和 40 年）	4 月	洗足学園短期大学幼児教育科、英文科 開設

1967年（昭和42年）	1月 4月	洗足学園大学 設置認可 洗足学園大学 開学
1980年（昭和55年）	1月 4月	洗足学園魚津短期大学 設置認可 洗足学園魚津短期大学 開学（～2002年3月）
2000年（平成12年）	4月	洗足学園大学大学院音楽研究科 開設
2002年（平成14年）	4月	洗足学園大学附属第一高等学校を洗足学園第一高等学校、洗足学園大学附属高等学校を洗足学園高等学校、洗足学園大学附属中学校を洗足学園中学校、洗足学園大学附属小学校を洗足学園小学校と改称
2003年（平成15年）	4月	洗足学園大学を洗足学園音楽大学と改称
2005年（平成17年）	4月	短期大学幼児教育科を幼児教育保育科と改称
2010年（平成22年）	4月	洗足学園短期大学を洗足こども短期大学と改称

5. 設置する学校・学部・学科等

① 洗足学園音楽大学

大学院（1999年12月22日認可）

音楽研究科

器楽専攻、声楽専攻、音楽教育学専攻、作曲専攻

音楽学部（1967年1月23日認可）

音楽学科

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 daigaku@senzoku.ac.jp

② 洗足こども短期大学（1962年1月20日認可）

幼児教育保育科（1965年1月25日認可）

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 tandai@senzoku.ac.jp

6. 学校・学部・学科等の学生数の状況

（2024年5月1日現在）

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
洗足学園音楽大学	大学院音楽研究科	64	96	128	193
	音楽学部	590	677	2,250	2,536
洗足こども短期大学	幼児教育保育科	250	180	500	374

7. 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学 校 名		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
洗足学園音楽大学	大学院音楽研究科	1.57	1.44	1.37	1.45	1.51
	音楽学部	1.07	1.10	1.11	1.12	1.13
洗足こども短期大学	幼児教育保育科	0.93	1.07	1.15	0.91	0.75

8. 役員の概要

理事 定数 5～9 名 現員 9 名

監事 定数 2 名 現員 2 名

理 事

2024 年 5 月 1 日現在

氏名	選任条項	就任年月日	常勤/非常勤	備 考
宮阪 元子	第 6 条第 1 項第 1 号	2016 年 4 月 1 日	常勤	
落合 俊文	第 6 条第 1 項第 1 号	2018 年 4 月 1 日	常勤	
前田雄二郎	第 6 条第 1 項第 1 号	2020 年 4 月 1 日	常勤	
田中 友樹	第 6 条第 1 項第 1 号	2023 年 4 月 1 日	常勤	
吉田 和之	第 6 条第 1 項第 2 号	2003 年 4 月 1 日	常勤	常任理事
万代 晋也	第 6 条第 1 項第 3 号	2024 年 4 月 1 日	非常勤	学外者
前田 壽一	第 6 条第 1 項第 4 号	1985 年 6 月 17 日	常勤	理事長
井田 光政	第 6 条第 1 項第 4 号	2019 年 4 月 1 日	非常勤	学外者
吉田 英也	第 6 条第 1 項第 4 号	2023 年 10 月 1 日	非常勤	学外者

監 事

2024 年 5 月 1 日現在

氏名	選任条項	就任年月日	常勤/非常勤	備 考
前田 隆芳	第 7 条第 1 項	2017 年 10 月 1 日	非常勤	学外者
鈴木 裕子	第 7 条第 1 項	2018 年 9 月 14 日	非常勤	学外者

役員賠償責任保険制度への加入

私大協役員賠償責任保険に継続加入することを理事会にて審議・可決いたしました。

団体契約者 日本私立大学協会

被保険者 理事、監事及び評議員

契約期間 2024 年 4 月 1 日より 1 年間

保険期間中総支払限度額 10 億円

補償内容 被保険者が負担することになる法律上の損害賠償金及び争訟費用の損害を補填

9. 評議員の概要

評議員 定数 11～19 名 現員 19 名

評議員

2024 年 5 月 1 日現在

氏名	選任条項	就任年月日
小嶋 貴文	第 22 条第 1 項第 1 号	2018 年 4 月 1 日
前田英三郎	第 22 条第 1 項第 1 号	2020 年 4 月 1 日
江原 陽子	第 22 条第 1 項第 1 号	2023 年 4 月 1 日
田中 純子	第 22 条第 1 項第 2 号	2018 年 9 月 1 日
前田 壽一	第 22 条第 1 項第 3 号	1980 年 5 月 28 日
吉田 和之	第 22 条第 1 項第 3 号	1999 年 4 月 1 日
井田 光政	第 22 条第 1 項第 3 号	2007 年 6 月 1 日
落合 俊文	第 22 条第 1 項第 3 号	2010 年 4 月 1 日
前田雄二郎	第 22 条第 1 項第 3 号	2011 年 4 月 1 日
宮阪 元子	第 22 条第 1 項第 3 号	2016 年 4 月 1 日
田中 友樹	第 22 条第 1 項第 3 号	2023 年 4 月 1 日
吉田 英也	第 22 条第 1 項第 3 号	2023 年 4 月 1 日
黒木 正郎	第 22 条第 1 項第 4 号	2019 年 4 月 1 日
清田千壽子	第 22 条第 1 項第 4 号	2019 年 4 月 1 日
富樫 恭子	第 22 条第 1 項第 4 号	2021 年 6 月 1 日
鈴木 万智	第 22 条第 1 項第 4 号	2022 年 4 月 1 日
平田 洋二	第 22 条第 1 項第 4 号	2022 年 4 月 1 日
万代 晋也	第 22 条第 1 項第 4 号	2023 年 10 月 1 日
山田 洋志	第 22 条第 1 項第 4 号	2024 年 4 月 1 日

10. 教職員の概要

2024 年 5 月 1 日現在

教職員/本務兼務区分		人 数	平均年齢
教 員	本務教員	199	46.2
	兼務教員	1,162	50.2
職 員	本務職員	93	45.2
	兼務職員	66	35.2

11. その他

(1) 系列校の状況

① 洗足学園高等学校 全日制課程 普通科 クラス数 18 現員数 727 名

② 洗足学園中学校 クラス数 18 現員数 795 名

(併設型中高一貫校)

高等学校 (1948年3月10日認可)

中学校 (1953年3月31日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 ao@jh-staff.senzoku.ac.jp

③ 洗足学園小学校 クラス数 12 現員数 442 名

(1948年12月25日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 syo-jimu@senzoku.ac.jp

④ 洗足学園大学附属幼稚園 クラス数 4 現員数 93 名

(1948年3月25日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 kg-office@senzoku.ac.jp

事業の概要

1. 主な教育・研究の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

<大学>

本学は所定の在学年数を満たし、本学が定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学修成果を修め、その証として、所定の単位を修得し卒業した者を、建学の精神を体現し十分な専門的知識や技能及び汎用的能力を身に付けた人間性豊かな人材と認め、学士(音楽)の学位を授与する。

【音楽学部】

- ①自らの専門分野に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。(専門性・専門実技)
- ②社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感することができる。(多様性の尊重)
- ③自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。(協働する力)
- ④自らの専門分野である音楽を通して、社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。(社会貢献・実践的態度)
- ⑤論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。(論理的思考力・問題解決力)

<大学院>

本学大学院は所定の在学年数を満たし、音楽研究科が定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学修成果を修め、その証として、所定の単位を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に修士(音楽)の学位を授与する。特定の課題については、修了演奏若しくは修了作品をもって充てることができる。

【音楽研究科】

- ①自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。(専門性・専門実技)
- ②社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感することができる。(多様性の尊重)
- ③自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。(協働する力)
- ④国際社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。(社会貢献・国際貢献・実践的態度)
- ⑤論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。(論理的思考力・問題解決力)
- ⑥社会における自らの専門分野の意義と役割を理解し、専門家として主体的で創造的な研究活動を継続することができる。(プロフェッショナル)

＜短期大学＞

本学の教育理念、教育目的に基づく教育課程の学修により、卒業に必要な所定の単位を修得し以下に示す要件を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「実践力」、「表現力」、「協働力」を備えたものとして、短期大学士（幼児教育保育）の学位を授与する。

①（保育者としての自覚）

豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任感を有している。

②（専門的知識および技術）

幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している。

③（創造的な表現力および展開力）

創造的な表現力を身に付け、保育活動を豊かに展開する力を備えている。

④（柔軟な保育実践力）

幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている。

⑤（社会性および協働意識）

社会人および保育者として必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる。

⑥（倫理観と地域貢献への意欲）

高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している。

（２）教育課程の編成及び実施に関する方針

＜大学＞

（教育課程編成の方針）

- ①教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
- ②教育課程の編成に当たっては、深く専門の学芸を教授し、その応用的能力を展開させるとともに、幅広く深い教養及び実行力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。

（教育課程実施の方針）

- ③「卒業認定・学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・技能等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかについて、学生が理解しやすいように配慮する。
- ④学生の主体的で活発な学修意欲を促進する立場から、社会的実践の機会を積極的に設定する。
- ⑤成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の主題・到達目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、総合的・多面的な成績評価を実施する。

＜大学院＞

（教育課程編成の方針）

- ①教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。

- ②教育課程の編成に当たっては、専門分野に関する高度な専門的知識、演奏・表現能力あるいは研究能力を修得させるよう適切に配慮する。

（教育課程実施の方針）

- ③「修了認定・学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかについて、学生が理解しやすいように配慮する。
- ④学生の主体的で活発な学修意欲を促進する立場から、社会的実践の機会を積極的に設定する。
- ⑤成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の主題・到達目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、総合的・多面的な成績評価を実施する。
- ⑥修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。

<短期大学>

（教育課程編成の方針）

入学から卒業までの2年間の教育課程において、基礎的及び専門的知識・技術を段階的に修得できるように講義・演習・実習を有機的に配置し、以下の方針でカリキュラムを編成する。

- ①豊かな教養と保育の専門的な知識・技術を身に付けることのできるカリキュラム
- ②幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得できるカリキュラム
- ③創造的な表現力、コミュニケーション力の向上が図られるカリキュラム

（教育課程実施の方針）

学修過程については、洗足こども短期大学の実践標語である「理想は高遠に、実行は卑近に」に基づき、学生が高い意欲のもと真摯に努力することができるよう全科目をカリキュラムマップとして提示し、主体的な学びへの一助とする。学修の内容・方法については以下の点に配慮をする。

- ①保育に必要な表現力とコミュニケーション能力の向上を重視し、その実現を図るために、学校行事、音楽検定及び実習と各授業科目との関連性に配慮する。
- ②保育者としての責任を自覚し、保育実践を自ら反省し改善していく自己研鑽力の向上が図られるよう配慮する。

（3）入学者の受入れに関する方針

<大学>

本学は、「理想高遠 実行卑近」を建学の精神とし、「主体的な学び」を実践することで、豊かな人間性と実行力を備え自立した人間を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を理解し、音楽の探求により、高い芸術性、専門分野の知識・技術を修得するとともに、自らの演奏・表現能力を高める意欲を持つ人材を、広く求めます。

【音楽学部】

- ①基本的な演奏技術・表現技法を有し、将来的にプロフェッショナルを目指す人材、及び音楽を深く愛し、自己の研鑽に意欲的である人材。
- ②主体的に学ぶ姿勢を持ち、世界の様々な地域、民族、時代の音楽を受容し、理解しようとする人材。
- ③仲間とともに数多くの演奏会・公演の企画・運営・実施に参加し、実践を通して実社会への適応力、問題解決力、コミュニケーション能力を習得しようとする人材。
- ④音楽に対する強い情熱と感動を持ち、指導者として必要な知識・技術・人間性を身に付けようとする人材。

<大学院>

本学大学院は、音楽の理論及び応用を教授研究し、深奥をきわめて、専攻分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うとともに、建学の精神に基づいて人格を陶冶し、謙愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成し、文化の向上に寄与することを人材養成及び教育研究上の目的としています。この人材養成及び教育研究上の目的を達成するため、大学4年間で培った専門性・専門実技、多様性、協働する力、社会貢献・実践的態度、論理的思考力・問題解決力を更に研鑽し、揺るがぬ強い信念を持ち、自分自身の目標を達成するための挑戦を続ける意欲、能力のある人材を求めています。

<短期大学>

本学は、建学の精神に基づき、豊かな人間性と実行力を備えた保育者を養成しています。専門的知識と技術の修得に必要な基礎学力を備え、保育者になるという夢の実現に向けて強い意志を持って努力できる人を求めています。

具体的に求める人物像は以下の通りです。

- ①保育者として社会に出て自立して活動することを目指し、そのために必要な教養と専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけるための熱意と向上心があり、主体的に努力することができる人。
- ②自分の意見を発信することができる一方で異なる多様な意見も尊重し、他者と明朗活発にコミュニケーションを図りながら協力して授業や行事に取り組むことができる人。
- ③子どもと子どもを取り巻く社会や文化に関心を持ち、自らの問題意識に基づいて積極的に探求を行い、読む・書く・聴く・話す力、および創造的な表現力を主体的に身につけることができる人。
- ④保育者としての自覚と責任感を持つことを意識し、多様な環境に順応できるように努め、心身の健康管理に留意できる人。

2. 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

(1) 2020年度－2024年度中期計画の進捗・達成状況について

「学校法人洗足学園2020年度－2024年度中期計画」は「学園創立100周年及びその先の未来に向けて」をVISIONとして、基本方針を全てのステークホルダーのために永続的に存続する学園を目指し3つの目標を設定しております。

①学生・生徒・児童・園児本位の教育を実現し、真の学力形成を目指します

②学生・生徒・児童・園児のみならず保護者、地域社会の期待に応える教育・研究を実現し「選ばれる学校」となります

③安定した財務基盤を保ち、教育資源へ積極的な投資を行います

目標①につきましては、学園の設置する各学校において真の学力形成を目指してICTを最大限活用するための環境の整備や教育体制の構築を進めております。特に小学校・中学校・高等学校では、ChatGPT導入に関する研究も継続しつつ、指導の根幹を成す教科指導力の向上を図るため、多くの教員研修を実施いたしました。

また、短期大学においては学位授与の方針に沿った教育環境を整えるため入学定員変更の届出および承認申請を行いました。

目標②につきましては、大学・短期大学において音楽や保育の分野も含め、社会に有意義な人材を多数輩出いたしました。中学校・高等学校、小学校、幼稚園では保護者の期待に応える進学実績を実現して、募集状況については堅調に推移しております。また、大学では社会の要請や受験生のニーズに対応すべく、本年度よりメディアアーツコースを開設して授業を開始したほか、全日本吹奏楽コンクール課題曲クリニックをはじめ多くの演奏会の公開を通じて、文化芸術の振興に寄与しております。

目標③につきましては、予算を統制しつつ、中学校・高等学校において全ての生徒用机・椅子を入れ替えるなど、教育環境整備のため多くの施策を本年度も実施いたしましたが、教育活動収支および経常収支は収入超過を維持することができました。引き続き学園創立100周年のさらに先に向けて、安定した財政基盤の維持に努めてまいります。

その他各学校の教育活動に係る計画につきましては、事業計画の達成状況に記載しており全体として概ね順調に推移しております。

(2) 2024年度事業計画の達成状況について

大学、短期大学をはじめとする学園各校は年度ごとに定める「2024年度 学校法人洗足学園事業計画」に基づいて教育・研究活動を展開しておりますが、その達成状況は以下のとおりとなっております。

<洗足学園音楽大学>

① 新体制の構築

音楽学部長の小嶋貴文教授が副学長に、声優アニメソングコースのアカデミックプロデューサーの江原陽子教授が大学院研究科長・大学音楽学部長に就任いたしました。少子化など大学運営や教育研究活動を取り巻く環境が年々厳しさを増す中、前田雄二郎学長の指揮のもと、より強固な大学運営体制を構築してまいります。

② コースの新設及び新校舎の供用

「メディアアーツコース」が30名の新入生を迎えて第一歩を踏み出すと同時に、当コースの活動拠点となる新校舎「メディアラボラトリー」も4月より供用を開始いたしました。映像と音楽の融合をテーマに展開する同コースの教育を支える収録・編集・加工・再生機材をメディアラボラトリー内に多数配備し、2025年2月にはスタンフォード大学のカプチンスキー准教授との共同研究「47 Trees」をMスタジオで開催いたしました。今後も音楽・音響デザインなど他コースとのコラボレーション等も積極的に行えるよう、教育研究環境を整えてまいります。

③ 演奏会の開催

2024年度の大学主催演奏会として、授業成果の発表の場として実施した演奏会が220公演、創立100周年を記念して各コースで企画された演奏会が19公演、前年度に引き続き開催されたプレミアムコンサートが46公演、合計285公演を開催いたしました。演奏会には、原田慶太楼氏、現田茂夫氏、齊藤一郎氏といった著名な指揮者のほか、海外からはルイス・セラーノ・アラルコン氏、ロバート・チャイルズ氏、フィリップ・スパーク氏、ダグラス・ボストック氏、デイビッド・チャイルズ氏（ユーフォニアム）といった指揮者やソリストを招聘し、多彩な演奏が行われました。さらに、ダンスコースおよびバレエコースにおいても新作振付が披露され、ダンスコースは3月の「特別公演」において、GENERATIONS from EXILE TRIBEのメンバーであり、本学と包括連携契約を締結しているEXPG高等学院の中務裕太学長が振付を担当。バレエコースでは、7月の「前期公演」において山本康介教授が振付を担当いたしました。その他、声優アニメソングコースによる祝祭音楽劇『MATEKI』や、ミュージカルコースによる『Future!!～前田若尾物語～』など、100周年ならではの特色ある演奏会を開催いたしました。

④国際交流

バークリー音楽大学の留学生オーディションを本学内で実施するなど教職員の交流を図れたほか、東南アジア音大連盟の年度大会への参加や韓国中央大学先端映像大学院との交流開始など、海外の芸術系大学と連携を深めることができました。

海外の入学希望者を念頭にオンラインによる広報活動等も含めた活発な国際交流により、外国人留学生の出願数が増加いたしました。

⑤キャリア支援の充実

卒業後の進路について学生のニーズに即した情報を提供するため、キャリアイベントの開催数を増加したほか、教員や外部アドバイザーとの協働による就職活動支援体制の充実を図った結果、個別相談件数が約1.7倍となりました。

⑥高等教育修学支援制度の継続

高等教育修学支援制度につきましては、2024年度も対象機関となるよう申請し、家計急変者も含めた受給対象者の日本学生支援機構への申請を支援して、学生の学びの継続に対応いたしました。

<洗足こども短期大学>

①入学定員の見直し

短期大学においては、これまで多くの志願者を集めてきたものの過去2年間の入学者数が入学定員を下回り、入学者受入れの方針に基づいた入学者選抜の実施及び学位授与の方針に沿った教育が難しい状況にあることから、これらを是正して教育環境を整えるため2025年度より入学定員を150名に変更する届出および承認申請を行いました。

②「実践力」「表現力」「協働力」を備えた保育者（学生）の養成

○実習指導体制のさらなる強化・充実

2年生の実習指導に関する習熟度別授業（3コース制）の定着及び内容向上を目指し、実習参加条件としてGPA基準を有効活用したほか、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにより実習指導と各授業科目の相関関係や履修順序等の検証を行い、ガイダンスを通じて学生との共有を図りました。

○「入学前教育」から「初年次教育」への体制強化

2年間の学習期間をより充実させるため、入学後の短大生活をスムーズにスタートさせることを目的として、入学予定者を対象としたオリエンテーションを対面とオンラインの両立てで開催いたしました。

○iPadを活用した学びの定着と強化

ICT化の進む保育現場に対応できるスキルを備えた人材育成を進めるため、教員によるiPad活用の研究に関するFD研修会を実施するなど、教員の指導力向上に努めました。

③実習・就職支援の強化

教職員の協働体制を強化するため、実習・進路サポート体制を再構築いたしました。教員がより深く関わることでコミュニケーションの密度を高めることができ、学生指導効率の向上に繋げることができました。

④広報活動

ホームページやSNSを通じた情報発信を積極的行い、直接生徒とコミュニケーションをとることができる出張授業については前年度を上回る実施回数となりました。

⑤学生の満足度向上、対外活動等

学生生活がより豊かになるよう発足した学生サポーター制度が定着し、学生たちがより相談しやすい環境を整えることができました。

また、対外活動においては、市内の幼稚園等が企画する各研修への講師派遣の他、こども家庭庁や各自治体との連携も積極的に参画し、社会貢献活動についても一定の成果を挙げることができました。

⑥高等教育修学支援制度の継続

高等教育修学支援制度につきましては、2024年度も対象機関となるよう申請し、家計急変者も含めた受給対象者の日本学生支援機構への申請を支援して、学生の学びの継続に対応いたしました。

<洗足学園中学校・洗足学園高等学校>

①教育課程について

新しいカリキュラムにより「情報特講」を新設して運用を開始いたしました。また、ルーブリック評価の研究や評定算出に関する基準の見直しを実施し、教科の指導法と評価の一体化を図るための取り組みを進めてまいりました。

②教育活動について

「芸術」等の科目や「哲学対話」を通して心を育てる教育を実践し、「総合的な探求の時間」の講座数を増設するなど生徒の学びの幅を拡大する一方で、教員を対象とした内部研修である教科ごとの「研究授業」「大学入試問題研究」の実施や、外部研修等を通じて教員の教科指導力向上に努めてまいりました。

③グローバル化対応教育及び海外大学への進学サポート

世界の学生・生徒と直接交流できる活動について積極的に活動し、ハーバード大学・オックスフォード大学主催の模擬国連には16名が参加し、本校が企画する留学・語学研修プログラムにも98名が参加いたしました。

また海外大学進学に関して、卒業生や教員による進学講演会の他、海外大学のアドミッションオフィサーの講演や外部奨学金の説明会など国際交流チーム（Gateway to the World）を中心に活動した結果、ハーバード大学をはじめとする海外大学に4名の卒業生が進学することとなりました。

④入試制度・広報活動

中学入試の実施回数及び各回の募集人数について検討を重ね、「入試改定案」を策定いたしました。

広報活動に関しては学校説明会（27回）、学校見学会（3回）、入試問題体験会など多くの広報イベントを開催したほか、北米4か所での帰国生対象の説明会・相談会に参加いたしました。また、LINE公式アカウントの運用を開始するなど広報活動へのSNS導入も積極的に行っております。

<洗足学園小学校>

①ICT教育について

Apple認定校が実施するOPEN DAY（公開授業）を核として、教員間でICT研修を実施して教員のスキルアップに取り組むとともに、教育への生成AI活用を研究して体験授業を実践するなど、ICTによる教育内容の充実を図りました。

②主体的な学びの進化

講義形式の授業から児童が自ら調べ、考え、発表する授業への移行を進めると同時に、ルーブリック評価など授業の変化に対応した学習評価についても検討を進めてまいりました。また、児童会活動や黒姫移動教室などのたてわり活動も児童中心にシフトして主体的な学びに繋げ、児童の思考力・創造力・コミュニケーション力・チームワーク力の向上に努めました。

③入試制度・広報活動

さらに質の高い入学試験を実施するため、内部入試も含めた試験の実施方法について変更いたしました。

また、本校の教育方針・入学試験方式等についてより丁寧に広く発信するため、入学希望者及び保護者の来校機会を増やすイベントを実施したほか、全面リニューアルしたホームページやSNSによる広報活動にも積極的に取り組みました。

④オーケストラ活動

学校の特色である小学校オーケストラの活動につきましては、8月及び12月に定期演奏会を開催いたしました。特に8月の演奏会は、学園創立100周年公演としてサントリーホールにおいて指揮者に秋山和慶芸術監督を迎えて開催し、盛大な記念演奏会となりました。

⑤進路指導

日本トップレベルの進学実績を維持するため、従来通り保護者との協力体制を築きつつ、新しい校務システムの導入により、教員間で児童の情報やノウハウについて共有化を図れたことからさらにきめ細やかな進学指導が可能となりました。

<洗足学園大学附属幼稚園>

①保育内容の充実

年齢の進行とともに組み入れる時間を増やしている「サイエンス」「英語」「製作」等のカリキュラムについて実践を通じてさらに充実させるため、教員研修などを通じて小学校での学習への連結をより意識して取り組みました。

②情報発信

2025年4月のホームページ刷新に向けて、本園の方針や保育の内容、普段の園児の様子などがより伝わりやすい構成とするため、検討を重ねてまいりました。今後も日常の保育や行事の様子をリアルタイムに数多く保護者に届けるよう更新してまいります。

また、対面による情報発信の新しい企画として2025年3月に「親子 de ようちえんたんけん」を開催したほか、公開行事への参加人数制限を廃止するなど、本園の特色を知る機会を多く創出いたしました。

③ICTの保育への活用

園内に配備しているappleTVやiPadなどのICT機器をより一層保育に活用するため、教員のICTスキルの向上を目的とした研修会を実施いたしました。一方で、教員の業務負担軽減を図るため、新園務システムを導入すべく準備を進めてまいりました。

④行事実施方法の見直し

「運動会」や「サマーコンサート」では年長園児がより主体的に行事に関われるように構成を変更し、年中園児には洗足学園小学校の1年生との交流会を設けるなど、年齢に合わせて行事の見直しを実施いたしました。

＜施設・設備整備事業＞

学園内における教育環境の維持・向上とともに、快適性を追求し、魅力あふれるキャンパス作りによる学園の競争力強化を目的に計画された事業は、概ね予定通り実施いたしました。

追加で実施した事業を含めまして、主な実施事業は以下の通りです。

〔施設・設備〕

＜大学・短期大学＞

メディアラボラトリー西側外構整備工事
キッズスクウェア受水槽室設備更新工事
カレッジセンター受変電設備更新工事
カレッジセンター地下1階改修工事
前田ホール舞台設備メンテナンス

＜中学校・高等学校＞

教室空調機オーバーホール
内装改修工事
冷温水ポンプ更新工事

＜小学校＞

職員室改修工事

＜幼稚園＞

幼稚園高圧ケーブル更新工事

＜法人本部＞

学園創立100年記念室整備工事
学園サーバー室移転工事

〔機器〕

＜大学・短期大学＞

デジタル音楽系機材購入
楽器整備（新規購入・取替更新・オーバーホール）

＜中学校・高等学校＞

生徒用机・椅子更新
理科教材購入

＜小学校＞

理科教材購入

＜幼稚園＞

職員室什器更新

＜学園全体＞

ネットワークインフラ関連機器更新
情報セキュリティ関連ソフトウェア購入
車両更新

<管理運営事業>

(1) 学園創立100周年事業

洗足学園は本年創立100周年を迎えました。8帖二間の教室から、「自立」「挑戦」「奉仕」の建学の精神のもと着実に大きく成長してきた100年間に想いを馳せ、次の100年に向けた一步を踏み出すため、下記の記念事業を実施いたしました。

①日本武道館での記念式典挙行

2024年10月に日本武道館において、創立100周年を記念した「記念音楽祭」および「記念式典」を2日間に亘り挙行いたしました。記念音楽祭では、洗足学園創立100周年記念委嘱作品『洗足学園祝典序曲』（作詞・作曲：渡辺俊幸客員教授）を皮切りに、『交響曲第9番ニ短調作品125より 第四楽章（合唱付）』（作曲：L.v. ベートーヴェン）などが演奏されました。また、記念式典では『Jupiter』（作詞：吉元由美／作曲：G. ホルスト／編曲：渡辺俊幸客員教授）、および『行進曲 威風堂々 作品39より第1番（洗足学園100周年特別バージョン）』（作曲：E. エルガー）が、2025年1月に急逝された秋山和慶芸術監督の指揮のもと、卒業生であり歌手である平原綾香氏、洗足学園100周年記念オーケストラおよび合唱団により演奏されました。

②100周年記念館の開設

学園の歴史の集積や過去の演奏会アーカイブを視聴できるほか、次の100年に向けた取り組みも随時アップデートしてご覧いただけるデジタルコンテンツ等を配備し、洗足学園を感じていただける施設「Feel SENZOKU」を開設いたしました。

③特別演奏会の開催

SENZOKU GAKUEN 100th ANNIVERSARY「プレミアムコンサート」と題して卒業生や教員などによるリサイタル形式のコンサートを46公演開催いたしました。

また、2023年度に引き続きミュージカル「前田若尾物語」の上演や、音楽劇形式によるコース横断型のモーツァルト「魔笛」、邦楽語り劇として泉鏡花原作の「天守物語」など特別企画演奏会の公演の他、大学の各コースで趣向を凝らした演奏会も開催いたしました。

④100周年記念ホームページの開設

各校の沿革や創設者の著作から引用したコラム、卒業生・在学生からのフォトメッセージのほか、記念動画も多数製作して100周年記念ホームページに掲載いたしました。

⑤サインの設置及びグッズの配布

学園構内及び校舎内に記念ロゴをデザインしたペナントなど装飾を施し、大学及び短期大学の学生には同様のロゴを配したTシャツを配布し、高等学校・中学校・小学校・幼稚園の在籍者には記念エンブレムを配布するなど、祝賀感を醸成いたしました。

(2) ガバナンス体制について

本学園は、学校教育法・私立学校法等の各法令を遵守し、適正かつ透明性の高い学園運営を目指して活動しております。2024年度は以下の施策を実施いたしました。

①改正私立学校法への対応

2025年4月1日に施行となる改正私立学校法に対応するため、寄附行為については2025年7月5日に文部科学省に変更認可申請を行い、同年10月28日に認可を受けました。また、並行して理事会・評議員会の運営に関する各規程について制定・改正を進めてまいりました。

②中期計画の策定

2020年度に策定した本学園の中期計画が2024年度をもって終了するため、あらたに2025年度より5年間の中期計画の策定が必要となったことから、第二期中期計画策定委員会を発足して2024年度までの中期計画の達成度等について検証すると同時に、2025年度からの中期計画についても策定いたしました。

③内部統制システムの検討

改正私立学校法施行により、「内部統制システム」の整備が求められることとなるため、システムの整備を進めるにあたり、学園として事業活動を健全かつ効率的に運営する体制構築のための基本方針について理事会で決議したほか、ガバナンスコードやコンプライアンス規程、危機管理規程などの整備を実施いたしました。

④研修制度の充実

管理職教職員を対象としたハラスメント防止研修や、主に教員を対象としたカスタマーハラスメント対応研修など本年度特別に企画した研修を開催したほか、ICTリテラシー向上のため定期的に開催しているGoogle研修に加えて生成AIを業務に活用するための研修なども取り入れ、教職員の意識向上及びスキルアップに努めました。

(3) 防災体制の整備

2018年3月に川崎市洪水ハザードマップが改定され、洗足学園溝の口キャンパスも浸水想定区域に新たに指定されております。これらへの対策を検討したうえで止水設備・土嚢設置等、防災計画策定に努めてまいりました。

2024年度は学園内の取り扱いデータについて消失リスク低減のため、サーバー室を大学の新校舎「メディアラボラトリー」内に移転して運用することといたしました。

また、学園内において防災計画の周知及び訓練を実施し、災害発生時においても被害を軽減する体制づくりに努めるとともに、大地震発災を想定した非常用備蓄中期計画の策定および計画に沿った備蓄品の補充・更新・処分に取り組みました。

(4) セキュリティ体制の強化

学園の情報セキュリティ強化に向けた施策として、情報セキュリティハンドブックの改定、教職員全員を対象とした研修および定期教育、内部監査等を通じたセキュリティ体制の底上げなどを実施いたしました。今後も適切な管理体制の維持に努め、個人情報やその他様々な情報等、漏洩防止に向けて対応してまいります。また、防犯につきましても、構内各所に防犯カメラを設置するなど対策を講じ、安心・安全な教育環境の構築を目指します。

(5) 財務

物価高騰などの厳しい運営環境にあっても各校の充実した教育活動を支えるうえで不可欠となる財政基盤の強化を図るため、学園の運用資産について検討を実施したほか、大学院の志願者増加に伴いよりきめ細かく入学試験を実施する必要性から、学納金を改定いたしました。

(6) 人財採用

教育活動の根幹を成す教職員の採用に関しては、年々採用環境が厳しさを増しておりますが、2024年度は特に以下の施策を中心に実施いたしました。

①大学

新コースのカリキュラムを担う教員や学生数の増加傾向にあるコースの教員などを中心に、豊富な経験と高い指導力を備える教員の採用活動を積極的に行いました。

②中学高校・小学校・幼稚園

中学高校における理数系教員や高度な小学校理科の授業を担う教員の採用が難しい中、中高において物理の専任教員1名を、小学校でも専任教員1名を採用することができました。また、幼稚園においても専任教員1名を採用いたしました。

③事務職員

より学園のニーズに合致する職員を採用するため、情報掲載サイトを追加して職員採用活動を実施したことにより、専任・非常勤合わせて29名の採用に至りました。

財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産	40,452,192,740	42,652,713,796	44,625,730,625	52,082,211,423	54,199,078,179
流動資産	11,067,560,132	9,577,580,487	8,858,269,573	2,125,598,594	1,153,898,903
資産の部合計	51,519,752,872	52,230,294,283	53,484,000,198	54,207,810,017	55,352,977,082
固定負債	254,058,250	228,393,625	212,796,250	207,061,250	219,195,000
流動負債	1,979,425,823	1,970,519,001	1,968,415,770	2,005,798,094	1,917,633,010
負債の部合計	2,233,484,073	2,198,912,626	2,181,212,020	2,212,859,344	2,136,828,010
基本金	49,968,400,664	50,327,574,530	51,097,889,454	53,362,622,310	53,821,348,905
繰越収支差額	▲ 682,131,865	▲ 296,192,873	204,898,724	▲ 1,367,671,637	▲ 605,199,833
純資産の部合計	49,286,268,799	50,031,381,657	51,302,788,178	51,994,950,673	53,216,149,072
負債及び純資産の部合計	51,519,752,872	52,230,294,283	53,484,000,198	54,207,810,017	55,352,977,082

イ) 貸借対照表関係比率

(%)

	比 率	算 式 (* 100)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	559.1	486.0	450.0	106.0	60.2
2	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	4.3	4.2	4.1	4.1	3.9
3	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前 受 金}}$	839.4	740.3	700.7	138.5	65.2
4	基 本 金 比 率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0
5	積 立 率	$\frac{\text{運用資産 (特定資産+有価証券+現金預金)}}{\text{要積立額 (退引+2号+3号+減価)}}$	104.4	105.6	106.9	99.2	102.2
6	運 用 資 産 余 裕 比 率	$\frac{\text{運用資産-外部負債}}{\text{経常支出}}$	2.9 年	3.0 年	3.0 年	2.7 年	2.9 年

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	6,894,997,647	7,129,867,012	7,335,016,591	7,397,116,191	7,490,980,187
手数料収入	94,921,250	109,543,250	107,545,850	105,976,350	99,561,000
寄付金収入	22,435,896	24,194,023	25,977,812	23,512,290	34,228,525
補助金収入	683,671,074	743,062,774	762,829,684	703,098,320	765,439,948
資産売却収入	5,130,040,190	3,569,598,714	32,549,973,281	500,605,100	2,082,770,514
付随事業・収益事業収入	120,718,403	205,205,846	165,382,429	177,316,470	180,559,522
受取利息・配当金収入	6,333,852	11,384,120	286,760,613	785,271,689	900,558,224
雑収入	23,442,634	33,528,550	27,815,968	25,629,185	35,588,397
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,311,722,702	1,284,122,702	1,233,249,702	1,262,262,582	1,222,537,552
その他の収入	4,777,596,496	84,863,978	10,282,641,802	194,898,859	4,629,506,076
資金収入調整勘定	▲ 1,237,265,781	▲ 1,325,619,403	▲ 1,469,377,372	▲ 1,522,670,024	▲ 1,550,476,510
前年度繰越支払資金	9,678,907,301	11,010,914,502	9,506,736,351	8,641,104,005	1,748,223,694
収入の部合計	27,507,521,664	22,880,666,068	60,814,552,711	18,294,121,017	17,639,477,129
支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	4,375,286,250	4,424,402,089	4,763,740,955	4,782,244,373	4,838,635,123
教育研究経費支出	1,376,427,620	1,462,700,487	1,493,883,632	1,769,602,215	1,435,002,796
管理経費支出	518,099,093	597,744,621	662,850,080	757,417,877	920,811,330
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	539,818,580	121,402,596	582,446,189	2,039,642,093	140,897,385
設備関係支出	386,571,097	343,371,898	406,637,994	519,625,424	409,585,296
資産運用支出	9,316,565,725	6,385,335,781	44,297,220,421	6,625,617,651	4,728,124,729
その他の支出	132,547,514	172,259,352	140,135,050	257,658,381	4,608,175,791
資金支出調整勘定	▲ 148,708,717	▲ 133,287,107	▲ 173,465,615	▲ 205,910,691	▲ 239,168,167
翌年度繰越支払資金	11,010,914,502	9,506,736,351	8,641,104,005	1,748,223,694	797,412,846
支出の部合計	27,507,521,664	22,880,666,068	60,814,552,711	18,294,121,017	17,639,477,129

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	7,839,417,998	8,242,264,760	8,423,991,533	8,432,218,602	8,602,674,939
教育活動資金支出計	6,269,812,963	6,484,847,197	6,920,418,987	7,309,264,465	7,194,421,596
差引	1,569,605,035	1,757,417,563	1,503,572,546	1,122,954,137	1,408,253,343
調整勘定等	128,461,459	▲ 45,430,066	▲ 4,701,306	19,727,978	▲ 13,556,195
教育活動資金収支差額	1,698,066,494	1,711,987,497	1,498,871,240	1,142,682,115	1,394,697,148
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	1,949,752	4,570,612	3,428,204	691,541	6,106,460
施設整備等活動資金支出計	926,389,677	464,774,494	989,084,183	2,559,267,517	550,482,681
差引	▲ 924,439,925	▲ 460,203,882	▲ 985,655,979	▲ 2,558,575,976	▲ 544,376,221
調整勘定等	6,234,282	361,460	▲ 270,635	▲ 4,465,347	4,152,422
施設整備等活動資金収支差額	▲ 918,205,643	▲ 459,842,422	▲ 985,926,614	▲ 2,563,041,323	▲ 540,223,799
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	779,860,851	1,252,145,075	512,944,626	▲ 1,420,359,208	854,473,349
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	9,890,392,400	3,651,187,566	43,102,627,592	1,295,259,641	7,320,990,672
その他の活動資金支出計	9,338,246,050	6,407,510,792	44,307,894,235	6,665,378,100	9,090,160,777
差引	552,146,350	▲ 2,756,323,226	▲ 1,205,266,643	▲ 5,370,118,459	▲ 1,769,170,105
調整勘定等	0	0	▲ 173,310,329	▲ 102,402,644	▲ 36,114,092
その他の活動資金収支差額	552,146,350	▲ 2,756,323,226	▲ 1,378,576,972	▲ 5,472,521,103	▲ 1,805,284,197
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	1,332,007,201	▲ 1,504,178,151	▲ 865,632,346	▲ 6,892,880,311	▲ 950,810,848
前年度繰越支払資金	9,678,907,301	11,010,914,502	9,506,736,351	8,641,104,005	1,748,223,694
翌年度繰越支払資金	11,010,914,502	9,506,736,351	8,641,104,005	1,748,223,694	797,412,846

ウ) 財務比率の経年比較

(%)							
	比 率	算 式 (* 1 0 0)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	21.7	20.8	17.8	13.6	16.2

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

	科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	6,894,997,647	7,129,867,012	7,335,016,591	7,397,116,191	7,490,980,187
	手数料	94,921,250	109,543,250	107,545,850	105,976,350	99,561,000
	寄付金	22,085,170	24,194,023	25,749,112	23,425,849	33,281,715
	経常費等補助金	683,504,074	742,912,206	762,829,684	703,098,320	765,439,948
	付随事業収入	120,718,403	205,205,846	165,382,429	177,316,470	180,559,522
	雑収入	23,191,454	30,542,423	27,467,867	25,285,422	32,852,567
	教育活動収入計	7,839,417,998	8,242,264,760	8,423,991,533	8,432,218,602	8,602,674,939
	事業活動支出の部					
	人件費	4,378,765,375	4,398,737,464	4,748,143,580	4,776,509,373	4,850,768,873
	教育研究経費	2,308,580,558	2,435,421,439	2,486,666,356	2,799,301,034	2,512,412,163
	管理経費	636,897,988	715,122,534	780,313,898	880,477,698	1,047,505,203
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	7,324,243,921	7,549,281,437	8,015,123,834	8,456,288,105	8,410,686,239
	教育活動収支差額	515,174,077	692,983,323	408,867,699	▲ 24,069,503	191,988,700
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	6,333,852	11,384,120	286,760,613	785,271,689	900,558,224
	その他の教育活動外収入	251,180	2,986,127	348,101	343,763	2,735,830
	教育活動外収入計	6,585,032	14,370,247	287,108,714	785,615,452	903,294,054
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	55,680	0	27,653
	教育活動外支出計	0	0	55,680	0	27,653
	教育活動外収支差額	6,585,032	14,370,247	287,053,034	785,615,452	903,266,401
経常収支差額		521,759,109	707,353,570	695,920,733	761,545,949	1,095,255,101
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	472,351,264	66,728,260	711,657,185	0	68,903,070
	その他の特別収入	8,952,732	2,956,100	696,111	4,544,576	135,290,027
	特別収入計	481,303,996	69,684,360	712,353,296	4,544,576	204,193,097
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	17,481,584	31,925,072	136,867,508	73,928,030	78,249,799
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	17,481,584	31,925,072	136,867,508	73,928,030	78,249,799
	特別収支差額	463,822,412	37,759,288	575,485,788	▲ 69,383,454	125,943,298
基本金組入前当年度収支差額		985,581,521	745,112,858	1,271,406,521	692,162,495	1,221,198,399
基本金組入額合計		▲ 804,676,180	▲ 359,173,866	▲ 770,314,924	▲ 2,264,732,856	▲ 458,726,595
当年度収支差額		180,905,341	385,938,992	501,091,597	▲ 1,572,570,361	762,471,804
前年度繰越収支差額		▲ 863,037,206	▲ 682,131,865	▲ 682,131,865	204,898,724	▲ 1,367,671,637
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		▲ 682,131,865	▲ 296,192,873	▲ 181,040,268	▲ 1,367,671,637	▲ 605,199,833
(参考)						
事業活動収入計		8,327,307,026	8,326,319,367	9,423,453,543	9,222,378,630	9,710,162,090
事業活動支出計		7,341,725,505	7,581,206,509	8,152,047,022	8,530,216,135	8,488,963,691

イ) 財務比率の経年比較

		(%)					
	比 率	算 式 (*100)	2020年度	2021年度	2021年度	2023年度	2024年度
1	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	55.8	53.3	54.5	51.8	51.0
2	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経 常 収 入}}$	29.4	29.5	28.5	30.4	26.4
3	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経 常 収 入}}$	8.1	8.7	9.0	9.6	11.0
4	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	11.8	8.9	13.5	7.5	12.6
5	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経 常 収 入}}$	87.9	86.4	84.2	80.2	78.8
6	経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経 常 収 入}}$	6.6	8.6	8.0	8.3	11.5

2. その他

(1) 有価証券の状況

①総括表

(単位：円)

	当年度 (2025年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	372,031,125	431,963,280	59,932,155
(うち満期保有目的の債券)	(372,031,125)	(431,963,280)	(59,932,155)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	23,697,126,621	21,938,189,978	△ 1,758,936,643
(うち満期保有目的の債券)	(23,692,384,591)	(21,933,505,211)	(△1,758,879,380)
合計	24,069,157,746	22,370,153,258	△ 1,699,004,488
(うち満期保有目的の債券)	(24,064,415,716)	(22,365,468,491)	(△1,698,947,225)
時価のない有価証券	2,000,000		
有価証券合計	24,071,157,746		

②明細表

(単位：円)

	当年度 (2025年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	24,064,415,716	22,365,468,491	△ 1,698,947,225
株式	0	0	0
投資信託	4,742,030	4,684,767	△57,263
貸付信託	0	0	0
合計	24,069,157,746	22,370,153,258	△ 1,699,004,488
時価のない有価証券	2,000,000		
有価証券合計	24,071,157,746		

(2) 借入金の状況

該当なし

(3) 学校債の状況

該当なし

(4) 寄付金の状況

一般寄付 236 件 18,835,000 円

特別寄付 24 件 15,393,525 円

現物寄付 37 件 134,343,217 円

(5) 補助金の状況

国庫補助金 215,636,800 円

地方公共団体補助金 549,803,148 円

(6) 収益事業の状況

該当なし

(7) 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

該当なし

イ) 出資会社

関連当事者に該当する出資会社はなし

(8) 学校法人間財務取引

該当なし

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

大学の入学定員増の影響により近年の学納金収入は増加傾向であるが、引き続き学園各校の学生・生徒等の募集に努め、安定を図っていく方針である。

支出面においては、学園創立100周年記念事業及び学園の施設設備の維持に係る改修工事は計画通り実施した。今後も予算統制を徹底しながら、教育活動の充実に資するため施設設備整備計画を進めていく方針である。